

取作徳といはれた。

**サクトクナラシ** 作徳平均 ↓ツボモチ 坪持。

**サクニン** 作人 耕作者の義である。藩政の時、野毛又は荒地を新開する際、その地元を支配するものを、何村領新開作人といふ如き類である。

**サクホウカセツ** 朔望佳節 藩政の時、毎月の朔望（正月元旦・正月十五日・七月十五日を除く）及び人日・上巳・端午・重陽の佳節には頭分以上の士が登城し、先づ奏者番に對面し、奏者所執筆の輿力をして、その姓名を帳に録せしめる。次いで大廣間に着座し、藩侯から謁を賜はるが、佳節には藩侯が多忙であるから、年寄の一人が代つて面接する。藩侯在江戸の時も之に同じ。又二月朔日に藩侯が謁する時は、御用番の披露がすむと、藩侯から『目出度』との御意があり、之に對して年寄中上席の者から『毎度御目見被仰付難有仕合奉存』と言上した。三月は藩侯が概ね参勤するから、朔日の謁の際『出府に付何れも息災に』との挨拶があつた。

**サクマナホトミ** 佐久間直富 通稱三郎太夫。寛保二年父平八郎の遺知三百五十石を襲ぎ、大小將に列し、寶曆八年十月廿七日江戸大銀奉行在役中不埒の所行あるを以て、本保十郎左衛門・那勝左衛門と共に改易せられた。

**サクマハンエモン** 佐久間半右衛門 徳川幕府の旗本佐久間甚九郎の二子。初めて前田利長に仕へて千二百石を領し、慶長十七年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

**サクマヒロモト** 佐久間寛臺 通稱五郎八。東岳と號した。天明四年七月同姓更事の後に

襲いで祿百石を受け、享和元年書物奉行兼書寫奉行となつた。寛臺讀書を好み、和歌を嗜み、又常に謠曲の文義解し難きものあるを憂へてその註釋を試み、謠言粗志内外四十二冊を編した。その他猫鼠軍談等の著がある。文政元年歿、年五十八。

**サクマモリアキ** 佐久間盛昭 通稱與吉大 作・武太夫。寛政七年與左衛門盛式の祿三百石を襲ぎ、組外に班し、會所奉行を經、御馬廻に列せられて御臺所奉行に任じ、遂に御留守居物頭に至り、天保元年百石を加へ、二年十月二十日歿した。

**サクマモリスケ** 佐久間盛亮 通稱虎之助。長太夫・吉右衛門。元祿九年幼少で父長兵衛長重の祿三の一を襲ぎ、十四年本知二百石に復し、大小將・御次番・御近留番を經、享保九年百石を加へ、次いで奥御納戸奉行・定番御番頭に任じ、延享元年正月十六日五十九歳を以て歿した。

**サクマモリマサ** 佐久間盛政 通稱玄蕃丸。しかし玄蕃助と書いた消息も單に玄蕃としたものもある。天正四年織田信長大坂の本願寺を攻めた時、加賀の一揆は蜂起して大聖寺城なる織田氏の將戸次廣正を攻め、廣正は急を信長に告げた。信長乃ち廣正を召還し、佐久間盛政をして之に代りて加賀を斬取にして領有すべきことを許し、且つ北庄の柴田勝家に對し、盛政の請求に應じて援助すべきことを命じた。勝家は北陸の惣帥であつたのみならず、また盛政の叔父であつたからである。既にして盛政は加賀に入り、勝家と共に敷地山の一揆を破り、更に動橋を陥れて御幸塚に退却せしめた。その後勝家は兵を収めて還つた

が、盛政獨御幸塚を攻め、一揆の將林七助・内山四郎左衛門を内應せしめて、その餘を潰走せしめた。五年八月信長は七尾城救援の目的を以て兵を加賀に進めたが、九月七尾城は陥落したるを以て兵を収めることとし、その際御幸塚城を修築して盛政の居館に宛てしめた。八年盛政は勝家の命によつて、吉野・劔・鞍・嶽・四十萬・若松より傳燈寺に向かひ、各地の堡壘坊舎を焚き、次いで河北郡車の山を經、竹橋より羽咋郡末森に出で、又柴田勝政と共に河北郡木越光徳寺に集合した一揆を破り、遂に金澤御坊を陥れて之を己の居城とした。爾後盛政は御山を改めて尾山と稱したといはれる。十年六月織田信長の弑せられた後、先に越後に逃れた温井景隆・三宅長盛兄弟は、七月石動山に入り、荒山に壘を築いて之に據つた。時に七尾城の前田利家は盛政に援を求めたから、盛政は直に兵を進めて、荒山を陥れ、景隆・長盛等を倒した。十一年二月柴田勝家が羽柴秀吉と戦はん爲先鋒の兵を近江に出すや、盛政之が總帥であつた。然るに四月廿一日の戦にその軍敗れ、盛政は逃れて敦賀附近に來たが、足に肉刺を生じたから農家に入つて灸を點じ、且つ食を得んことを求めたに、土民は彼が卑賤の士卒に非ざるを知り、捕へて秀吉の軍に送致した。尾山城は次いで秀吉の收むる所となり、而して盛政は後に六條河原に戮せられた。

**サクマヤエモン** 佐久間彌右衛門 初めて前田利長に仕へて二百石を領し、大坂再役に二・丸辨際で首一つを獲た。その子亦彌右衛門といひ、祿三百五十石に至つたが、五代三郎太夫直富の時、寶曆八年改易せられた。

**サクミ** 作見 江沼郡那谷谷の中に屬する部落。この村に問屋々敷の地名がある。上街道の古い道中記に、動橋から大聖寺までの間に作見宿とあるから、上一里宛の馬次であつたのであらうといふ。

**サクミジヨウ** 作見城 江沼郡作見にあつた。越登賀三州志故墟考に、作見の堡址は、往還道の左方の山で、一に之を藤丸岩とも號すとあり、芟憩紀聞には、藤丸新助といふ者の居城跡であるとし、江沼郡在々所々記には、それを小寺新助として居る。

**サクミヤキ** 作見燒 芟憩紀聞に、江沼郡作見村から、一町許北方山麓に焼物場の跡があり、作見燒とて皿などを焼出したとある。

**サクメイベンラン** 策名便覽 前田綱紀の寛文十一年自ら編したもので、藩士の俸祿・職掌・年齢・姓名を列記する。その數千五百餘人に及ぶが、歩士及び陪臣は之に與らぬ。

**サクライシ** 櫻石 手取川より産し、玩石家によつて賞揚せられる。この櫻石は植物化石の多い手取統の下にあるチレナ介殼を含む黝黒色の粘板岩又は黝褐石の礫で、水磨せられたる石面に顯れるチレナの断面が、櫻花の蕾又は半開に似てゐるから名を得る。

**サクランスケ** 櫻勘介 初め佐々成政の臣で、天正十二年末森城攻撃の際にも前軍に加はつたが、成政の轉封以後前田利長に來仕した。後勘介は伏見邸の書院に晝寝してゐたので、利長は怒つて北村八兵衛に命じ斬殺せしめたといふ。

**サクラギ** 櫻木 金澤の町名。茶臼の末、野田寺町の裏地で、今は櫻木一、小路より十、小路まである。此の附近は都べて泉野新村の

が、盛政獨御幸塚を攻め、一揆の將林七助・内山四郎左衛門を内應せしめて、その餘を潰走せしめた。五年八月信長は七尾城救援の目的を以て兵を加賀に進めたが、九月七尾城は陥落したるを以て兵を収めることとし、その際御幸塚城を修築して盛政の居館に宛てしめた。八年盛政は勝家の命によつて、吉野・劔・鞍・嶽・四十萬・若松より傳燈寺に向かひ、各地の堡壘坊舎を焚き、次いで河北郡車の山を經、竹橋より羽咋郡末森に出で、又柴田勝政と共に河北郡木越光徳寺に集合した一揆を破り、遂に金澤御坊を陥れて之を己の居城とした。爾後盛政は御山を改めて尾山と稱したといはれる。十年六月織田信長の弑せられた後、先に越後に逃れた温井景隆・三宅長盛兄弟は、七月石動山に入り、荒山に壘を築いて之に據つた。時に七尾城の前田利家は盛政に援を求めたから、盛政は直に兵を進めて、荒山を陥れ、景隆・長盛等を倒した。十一年二月柴田勝家が羽柴秀吉と戦はん爲先鋒の兵を近江に出すや、盛政之が總帥であつた。然るに四月廿一日の戦にその軍敗れ、盛政は逃れて敦賀附近に來たが、足に肉刺を生じたから農家に入つて灸を點じ、且つ食を得んことを求めたに、土民は彼が卑賤の士卒に非ざるを知り、捕へて秀吉の軍に送致した。尾山城は次いで秀吉の收むる所となり、而して盛政は後に六條河原に戮せられた。